

ふだん着の鎌倉

古(いにしえ)の鎌倉にタイムスリップ！

歴史の鼓動を感じる秋の一日

2008.9



携帯サイトでもご覧いただけます

<http://itoday.jp/>

▶ PCの方は <http://kamakuratoday.com/>

九月に入りふと空を見上げると「あれ、空ってこんなにか高かったっけ…」と思うことがありませんか？夏の空には掴めるくらい近く感じる「おしいそんな雲」。それに対して九月の雲は遠く手の届かないところにいつてしまったような…。そんな思いがふとよぎったら秋はもうすぐそこです。にぎわいをみせた由比が浜海岸もいつもの平穏さを取り戻し、ここ鎌倉にもだんだん秋が近づいてきます。

「土」の風情を色濃く感じることが出来る九月の鎌倉。今回はそんな歴史の鼓動に触れられる伝統行事を二つご紹介しましょう。

まずひとつめは大仏様と並んで鎌倉の顔である鶴岡八幡宮の例大祭。この例大祭、はじまりは一八七七年といふからなんと八百年以上の歴史を持つ祭事なのです。鎌倉幕府の始まりが一二年ですから、まさに鎌倉という街の歴史とともに歩んできたといえますね。中でもその迫力と華麗さで人気なのは流鏝馬神事。神事なの



迫力の流鏝馬神事

変わっているのはその神輿の前の「面掛行列」が練り歩くことなのです。赤たすきにねじり鉢巻き、笛や太鼓の囃子、白い幟旗の竹を担ぐ白装束の人たち、そ



なんともユーモラス

で「人気ある」というのは失礼にあたるかもしませんが、毎年会場である馬場は大勢の人で一杯になります。今年も九月十六日に、鎌倉武士の狩装束に身を包んだ射手が長さ約二五五mの馬場を馬で駆けながら三つの的へと矢を放ちます。

約八百年前、征夷大将軍になる五年前に源頼朝がはじめたという流鏝馬。きつと鎌倉時代の幕開けに立ち会おうかのような迫力を感じられることでしょう。射手の勇壮な姿をより近くでご覧になるにはお早めのお出かけを！そして写真、ビデオの撮影の際は、人に迷惑のからぬようマナーを守りましょう。

そんな興奮冷めやらぬ翌々日の九月十八日、坂ノ下の御霊神社では一風変わった例祭が行われます。この例祭では、神輿が御霊神社の目の前を走る江ノ電の踏切を越え、星の井通りから成就院近くの極楽寺坂を経て再び神社へと戻ってきます。あれ、それって普通？いえいえ

れらに続いて天狗の面をかぶった猿田彦、獅子頭を担ぐ人が続きます。さらにその後には十の面をつけた人たちが…。爺、鬼、異形、鼻長、烏天狗、翁、火吹男、福祿寿、おかめ、女と、それぞれの面が独特な雰囲気を作り出し、まるで異空間に入り込んでしまったかのようななんと不思議な光景が広がります。後ろの二人は女装ですが、面をつけるのは全て男性。少し離れて見るとユーモラスなお面も近くで見ると大迫力。「異形」と目があった(？)ときなどは思わずハッと身構えてしまいます。



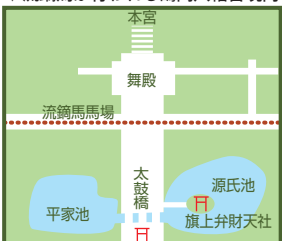
もしや目があった？



この日はこじんまりした神社の境内が多くの人でにぎわい、星の井通りは人垣で埋まります。三百年の歴史を持つ力餅家さんの「力餅」をほおばりながら目の前を練り歩く面掛行列を眺めれば、古の世界がなおいつそう広がってきそです。

遠く雲が流れる空の下、訪れたばかりの秋の気配とともに古の鎌倉に時間旅行を！

▼流鏝馬が行われる鶴岡八幡宮境内



▼面掛行列が行われる御霊神社周辺

